2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 **＜概評＞** ・修学支援では、学部・学科単位で留年・休学・退学者への対処や補習・補充教育が行われているが、学生の能力に応じた補習・補充教育の整備を期待したい。 ・出席不良者・成績不良者の早期把握や個別面談、補習・補充教育のほかに、オフィスアワー、進級不可者への指導等の取組みが行われているが、その効果の検証が必要である。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	国際関係学部
評価基準 6	学生支援　【自己評定　B】
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	**＜留年者および休・退学者の状況と対処法＞** 休・退学の申し出のあった学生に対して、学科主任が面談を行い、学生の状況把握に努めている。教務委員会に学生支援のための学生支援担当を設置し、「“怠学”予防」のための指導を定期的に行っている。学年ごとに成績不振者の基準を設定し、個別に指導する体制が整備されている。（追加資料）たとえば、初年次については、前期前半期に、必修科目（チュートリアル・総合英語・言語文化講座など）を対象に出席状況の調査を行い、欠席の多い学生を個別に指導している。また、前期終了段階で、取得単位数が 14 単位未満の 1 年生については、教務委員会の学生支援担当が、チュートリアル担当教員・学部事務室と連携して、個別の面談指導を行っている。 初年次教育の「チュートリアル」クラスや演習では、担当教員が学習のみならず、生活、就職など学生の相談に随時応じている。さらに、留年者には、学科主任と学部事務室で連携しながら、面談などによる個別の修学支援を行っている（B6-39 d2-表 36、37、38）。 **＜補習・補充教育に関する支援体制とその実施＞** 補習・補充教育については、学部としての取り組みは行っていない。オフィスアワーは、全教員が設定し、時間帯を DB ポータルで全学生に周知している。学生のさまざまな相談に応じられる体制がつくられている（A6-1、B6-16）。 事実上、1 年次から 4 年次まで、20 名以下の単位で専任教員が学生の生活・修学指導を行うことができる体制が定着しており（2 年次は授業はないが、1 年次の担当教員が引き続き責任をもって指導にあたることになっている）、あえてオフィスアワーを利用する必要のない学生も少なくないのが現状である。
6-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【○】 具体的事例：「国際関係学部における成績不振学生への個別指導体制」を整備し、学年ごとに指導対象と指導方法を明確化し、教授会等で共有した。学年末段階での成績をふまえ、早期に不振学生の保証人と協議する体制も整備した。 （2）補習・補充教育に関する支援体制とその実施について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

6-2	

【改善すべき事項】

6-2	オフィスアワーの存在が学生により認知され、利用されるような仕組みを整える。

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価 2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	6-2　オフィスアワーの存在が学生により認知され、利用されている。	オフィスアワーで学生相談に応じた教員数：20 名以上	→			C	C	
	キャリアに関する支援体制が整備されている	学部・キャリア支援課主催の企業セミナーや就職関連のイベントに参加した学生数：150 名以上				B	A	
	6－2　大学生活不適応者数の削減	2 年次留年者数：10 名未満				B	B	
16 年度目標	6-2　オフィスアワーの存在が学生により認知され、利用されている。	オフィスアワーで学生相談に応じた教員数：20 名以上				C		
	6-2　キャリアに関する支援体制が整備されている	学部・キャリア支援課主催の企業セミナーや就職関連のイベントに参加した学生数：150 名以上				B		
	6-2　大学生活不適応者数の削減	2 年次留年者数：20 名未満				A		
17 年度目標	6-2　オフィスアワーの存在が学生により認知され、利用されている。	オフィスアワーで学生相談に応じた教員数：20 名以上					C	
	6-2　キャリアに関する支援体制が整備されている	学部・キャリア支援課主催の企業セミナーや就職関連のイベントに参加した学生数：150 名以上					A	
	6-2　大学生活不適応者数の削減	2 年次留年者数：20 名未満					A	

Ⅳ　評価専門委員会所見

6-2 【現状】**【改善】【目標】**:「国際関係学部における成績不振学生への個別指導体制」体制を確立しており、2015 から 2017 年にわたって２年次の留年者を押さえられた事は評価できます。キャリア教育支援について、学部をあげて取り組んでいる事も、評価できます(表 d2−36,37,38)。

6-2 【目標】**【改善】**学生のオフィスアワーの利用等のすすめなどの方策がいきとどくような工夫があると良いと思います。

Ⅴ　所見への対応

6−2 【目標】【改善】に関しては、本学部では、演習が 1 年次より必修となっていることにより、学生と教員の日常的な接触が行ないやすい状況にあるといえる。あえてオフィスアワーを利用しなくても必要な相談がゼミの前後で行えてしまうという面があり、それがオフィスアワーの利用率が芳しくない一因になっている可能性もある。とはいえ、オフィスアワーの趣旨からすれば、演習の教員だけではなく多様な話題について多様な教員と交流することが望ましいわけで、ご指摘の通り、今後は、教員間で連携を取るなどして、学生に複数の教員のオフィスアワーを利用させるような工夫や仕組みをつくっていきたい。

Ⅵ　次年度への課題

オフィスアワーの活用方法を学生に周知する方法を検討する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A6-1　大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）
大東文化大学ホームページ（Web シラバス）
http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html　≪既出≫A4-2-16
B6-16 国際関係学部　オフィスアワー実施表（2016）
B6-39 大学データ集　≪既出≫B1-22

〔追加資料〕
「国際関係学部における成績不振学生への個別指導体制について」（2016 年 3 月 1 日教授会承認）